

ヤツシロソウ

学名 *Campanula glomerata* L. var. *dahurica* Fisch. ex Ker-Gawler

目名

目名学名

科名 キキョウ科

科名学名 Campanulaceae

カテゴリー 大分県: I A (CR) 環境省: I B (EN)

NO IMAGE

[選定理由]

過去には多く生育していたが、現在の生育地はごく希である。人工牧野などへの土地改変や植生遷移の進行により、生育地のほとんどが消滅寸前にあり、絶滅の危険性が極めて高い。

| | |
|-------|---|
| 県内分布 | 九重火山群,大野川上流域,祖母・傾山地 |
| 分布域 | 九州(熊本・大分) |
| 世界的分布 | 朝鮮半島,中国(東北部),中国,アムール,ウスリー,コーカサス,東シベリア |
| 生育環境 | 丘陵地や低山地の草原。 |
| 現 状 | これまでに確認された生育地はほとんど消滅してしまい,放牧や牧草地に利用されないごく小面積の半自然草原でわずかな個体がみられる。 |
| 備 考 | 大陸系遺存植物。国立公園指定植物[阿蘇くじゅう]。指定希少野生動植物。 |

ツルギキョウ

学名 *Campanumoea javanica* Bl. subsp. *japonica* (Makino) Hong

目名

目名学名

科名 キキョウ科

科名学名 Campanulaceae

カテゴリー 大分県：Ⅱ (VU) 環境省：Ⅱ (VU)

NO IMAGE

[選定理由]

生育地は点在し、個体数も極めて少ない。林縁に生えるため植生遷移の進行による環境変化が懸念される。

| | |
|-------|--|
| 県内分布 | 英彦山・犬ヶ岳山地, 大分川・大野川丘陵地, 豊後水道域 |
| 分布域 | 本州(関東地方以西), 四国, 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) |
| 世界的分布 | 台湾 |
| 生育環境 | 丘陵地の林縁。 |
| 現 状 | 「英彦山・犬ヶ岳山地」, 「大分川・大野川丘陵地」, 「豊後水道域」で採集された標本はあるが, その後, 持続して生育しているかどうか把握されていない所がある。 |
| 備 考 | |

バアソブ

学名 *Codonopsis ussuriensis* (Rupr. et Maxim.) Hemsl.

目名

目名学名

科名 キキョウ科

科名学名 Campanulaceae

カテゴリー 大分県：Ⅱ (VU) 環境省：Ⅱ (VU)

NO IMAGE

[選定理由]

県内での各地域の草原に広く生育し、生育地の個体数も少なくない。しかし、各地で草原の管理放棄や開発などにより、環境が悪化し、生育地が減少傾向となっている。

| | |
|-------|---|
| 県内分布 | 大分川・大野川丘陵地, 津江山地, 玖珠丘陵地・山地, 由布・鶴見火山群, 九重火山群 |
| 分布域 | 北海道, 本州, 四国, 九州(佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) |
| 世界的分布 | 朝鮮半島, 中国東北部, ウスリー, アムール |
| 生育環境 | 丘陵地や低山地の草原。 |
| 現 状 | 人工草地への改変や草原の植林化で、消滅した生育地もある。 |
| 備 考 | |

サワギキョウ

学名 *Lobelia sessilifolia* Lam.

目名

目名学名

科名 キキョウ科

科名学名 Campanulaceae

カテゴリー 大分県：Ⅱ (VU) 環境省：掲載なし



【選定理由】

県内では北部・西部・中部地域の湿地に散在する。野焼きの停止による植生の遷移や人の採取により、生育地の減少や消滅が懸念される。

| | |
|-------|--|
| 県内分布 | (英彦山・犬ヶ岳山地), 玖珠丘陵地・山地, 九重火山群, 由布・鶴見火山群 |
| 分布域 | 北海道, 本州, 四国, 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) |
| 世界的分布 | 台湾, 朝鮮半島, 中国(東北部), 極東地方 |
| 生育環境 | 丘陵地から山地の池沼や湿地。 |
| 現状 | 野焼きの停止により植生の遷移が進み, 生育状態が悪化している所がある。「英彦山・犬ヶ岳山地」の標本はあるが, その生育地は把握されていない。 |
| 備考 | 北方寒冷地要素の植物。国立・国定公園指定植物[阿蘇くじゅう, 瀬戸内海, 耶馬日田英彦山] |

キキョウ

学名 *Platycodon grandiflorum* (Jacq.) A. DC.

目名

目名学名

科名 キキョウ科

科名学名 Campanulaceae

カテゴリー 大分県： I B (EN) 環境省： II (VU)

NO IMAGE

[選定理由]

県内での生育地は各地に散在しているが、個体数は僅少。植林や野焼きの停止などで植生が遷移して生育環境が変わり、人による採取もあって、絶滅の危険性が高くなっている。

| | |
|-------|---|
| 県内分布 | 耶馬溪・国東丘陵地, 中津・宇佐低地, 日田低地・丘陵地, 玖珠丘陵地・山地, 由布・鶴見火山群, 別府湾沿岸域, 豊後水道域, 豊後水道後背地域 |
| 分布域 | 北海道, 本州, 四国, 九州(福岡・佐賀・長崎・大分・宮崎・鹿児島) |
| 世界的分布 | 朝鮮半島, 中国(北部・東北部), ウスリー |
| 生育環境 | 丘陵地や低山地の草原。 |
| 現 状 | 植生遷移の影響により生育状態が悪化したり, 土地改変のため消滅した生育地がある。人によりしばしば採取される。 |
| 備 考 | 国立・国定公園指定植物[阿蘇くじゅう, 瀬戸内海, 耶馬日田英彦山, 日豊海岸] |

アソコギリソウ

学名 *Achillea sibirica* Ledeb. subsp. *subcartilaginea* Heimerl

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県：準(NT) 環境省：準(NT)

NO IMAGE

[選定理由]

火山性草原に生育し、生育地、個体数は比較的多い。野焼きの停止による植生遷移の進行や人工牧野への改変などで減少の傾向にある。また、人による採取も懸念される。

| | |
|-------|---|
| 県内分布 | 耶馬溪地区、英彦山・犬ヶ岳山地、日田低地・丘陵地、津江山地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、別府湾沿岸域、大分川・大野川丘陵地、大野川上流域、祖母・傾山地 |
| 分布域 | 九州(福岡・熊本・大分・宮崎) |
| 世界的分布 | |
| 生育環境 | 丘陵地や低山地の日当たりのよい草原。 |
| 現状 | 「九重火山群」の牧野改変で生育地が消滅したり、登山道の近くでは人の採取によって個体数の減少がみられる。 |
| 備考 | 九州特産種。 |

カワラハハコ

学名 *Anaphalis margaritacea* (L.) Benth. et Hook fil. subsp. *yedoensis* (Franch. et Savat.) Kitamura

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県：情報不足 (DD) 環境省：掲載なし

NO IMAGE

[選定理由]

| | |
|-------|---------------------------------------|
| 県内分布 | (中津・宇佐低地) |
| 分布域 | 北海道,本州,四国,九州(福岡・熊本・大分・宮崎) |
| 世界的分布 | |
| 生育環境 | |
| 現 状 | 「中津・宇佐低地」で採集された標本はあるが、その生育地は把握されていない。 |
| 備 考 | |

ヤブヨモギ

学名 *Artemisia codonocephala* Diels

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県：Ⅱ (VU) 環境省：Ⅱ (VU)

NO IMAGE

[選定理由]

分布域が狭く、本県では、主として火山性高原に群生している。草原開発や植林、野焼きの停止などで、生育地の減少や消滅が懸念される。

| | |
|-------|--|
| 県内分布 | 玖珠丘陵地・山地, 九重火山群, 由布・鶴見火山群, 別府湾沿岸域 |
| 分布域 | 九州(熊本・大分) |
| 世界的分布 | 朝鮮半島, 中国(北部, 東北部) |
| 生育環境 | 丘陵地や退散地の草地や林縁。 |
| 現 状 | 野焼きされている草原に群生地がみられるが, 人工牧野や植林地などでは, ほとんど消滅している。 |
| 備 考 | 大陸系遺存植物。九州の生育地は分布の南限域にあたる。異名: プンゴヨモギの基準標本産地[豊後国飯田] |

ケショウヨモギ

学名 *Artemisia dubia* Wall.

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県：準(NT) 環境省：掲載なし

NO IMAGE

【選定理由】

分布域が狭く、火山性高原の湿地周辺にしばしば群生している。植林や野焼きの停止による植生の遷移により、生育環境の変化が懸念される。

| | |
|-------|---|
| 県内分布 | 玖珠丘陵地・山地, 九重火山群, 由布・鶴見火山群, 大野川上流域, |
| 分布域 | 九州(熊本・大分) |
| 世界的分布 | 朝鮮半島, 中国(北部, 東北部), 蒙古, ダフリア, インド |
| 生育環境 | 丘陵地や低山地の湿地。 |
| 現 状 | 高原の湿地周辺地にしばしば群生しているが, 植生遷移で生育が衰退している所がある。 |
| 備 考 | 大陸系遺存植物。 |

フクド

学名 *Artemisia fukudo* Makino

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県：準(NT) 環境省：準(NT)

NO IMAGE

[選定理由]

近畿以西の海岸や河口の塩泥湿地に分布する。本県でも塩湿地に生育し、しばしば群生する。海岸の開発や護岸工事などにより、生育地の消滅が懸念される。

| | |
|-------|---|
| 県内分布 | 周防灘海岸, 姫島・国東海岸, 別府湾沿岸域, 豊後水道域 |
| 分布域 | 本州(近畿地方以西), 四国, 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) |
| 世界的分布 | 朝鮮半島 |
| 生育環境 | 海岸の塩湿地。 |
| 現状 | 海岸の埋立てや河川敷の多目的利用などによって、生育地を消滅した所がある。 |
| 備考 | |

ヒロハヤマヨモギ

学名 *Artemisia stolonifera* (Maxim.) Komar.

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県：準(NT) 環境省：準(NT)

NO IMAGE

[選定理由]

県内の火山地域に広く分布し、しばしば群生する。高原の土地開発や植生遷移の進行による生育状態の変化が懸念される。

| | |
|-------|---|
| 県内分布 | 玖珠丘陵地・山地, 九重火山群, 由布・鶴見火山群, 大分川・大野川丘陵地, 大野川上流域, 祖母・傾山地 |
| 分布域 | 本州(中国地方), 四国, 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎) |
| 世界的分布 | 朝鮮半島, アムール, ウスリー, ウダ, 中国(東北部) |
| 生育環境 | 丘陵地から山地の草地や林縁。 |
| 現状 | 生育地は比較的多いが, 草原開発や植林化で消滅したり, 生育が衰退した所がある。 |
| 備考 | 大陸系遺存植物。 |

アソヨモギ

学名 *Artemisia stolonifera* (Maxim.) Komar. var. *microcephala* Kitamura

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県：情報不足 (DD) 環境省：掲載なし

NO IMAGE

[選定理由]

| | |
|-------|---|
| 県内分布 | (由布・鶴見火山群) |
| 分布域 | 九州(熊本・大分) |
| 世界的分布 | |
| 生育環境 | |
| 現 状 | 「由布・鶴見火山群」での文献記録はあるが、その生育地は把握されていない。 |
| 備 考 | 九州特産種。文献[北村四郎:Compositae Japonicae 京都大学理学部紀要 Ser.B,15 (1940)] |

ヒゴシオン

学名 *Aster maackii* Regel

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県: IB(EN) 環境省: II(VU)

NO IMAGE

[選定理由]

生育する湿地は希で、個体数も少ない。湿地が開発されたり、森林化したりして生育状態が悪化し、さらには人による採取もあって、絶滅の危険性が高くなっている。

| | |
|-------|---|
| 県内分布 | 津江山地, 九重火山群, 由布・鶴見火山群 |
| 分布域 | 九州(熊本・大分・鹿児島) |
| 世界的分布 | 朝鮮半島, 中国(東北部), アムール, ウスリー |
| 生育環境 | 丘陵地から低山地の湿地。 |
| 現 状 | いずれの湿地も個体数が少なく、土地開発で消滅したり、植生遷移の進行により、生育状態が悪化している所がある。 |
| 備 考 | 大陸系遺存植物。九州は、分布の南限域にあたる。 |

シオン

学名 *Aster tataricus* L. fil.

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県: IB(EN) 環境省: II(VU)

NO IMAGE

[選定理由]

日本における分布域は狭く、県内では主として中部・南部地域に分布する。湿地開発や植林などのため消滅する生育地が多くなって、絶滅の危険性が高い。

| | |
|-------|---|
| 県内分布 | 中津・宇佐低地, 津江山地, 九重火山群, 由布・鶴見火山群, 大分川・大野川丘陵地, 大野川上流域, (祖母・傾山地) |
| 分布域 | 本州(中国地方),九州(熊本・大分・宮崎) |
| 世界的分布 | 朝鮮半島,中国(東北部),中国(北部),蒙古,シベリア |
| 生育環境 | 丘陵地や低山地の湿地。 |
| 現状 | 「祖母・傾山地」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。各地の人家に栽培されていて、自生するものと区別できにくいものがある。 |
| 備考 | 大陸系遺存植物。九州は、分布の南限域。国立公園指定植物[阿蘇くじゅう] |

ウラギク

学名 *Aster tripolium* L.

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県：Ⅱ (VU) 環境省：Ⅱ (VU)

NO IMAGE

[選定理由]

生育地は海岸や河口の塩湿地に限られていて、点在し、個体数は極めて少ない。海岸の埋立てや河川敷の浚渫などの改変により、生育地の減少や消滅が懸念される。

| | |
|-------|--|
| 県内分布 | 周防灘海岸, 別府湾沿岸域, 豊後水道域 |
| 分布域 | 北海道, 本州, 四国, 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) |
| 世界的分布 | 樺太, 朝鮮, 中国(北部), 満州, 東シベリア |
| 生育環境 | 海岸の塩湿地。 |
| 現状 | 海岸や河口の塩湿地に分布しているが, 海岸の埋立てや河川敷利用などによって生育地を消滅した所がある。 |
| 備考 | 国立・国定公園指定植物[瀬戸内海, 耶馬日田英彦山, 日豊海岸] |

モミジタマブキ

学名 *Cacalia farfaraefolia* Sieb. et Zucc. var. *acerina* (Makino) Kitamura

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県：情報不足 (DD) 環境省：掲載なし

NO IMAGE

[選定理由]

| | |
|-------|-------------------------------------|
| 県内分布 | (津江山地) |
| 分布域 | 本州(東海道,近畿地方南部),四国, |
| 世界的分布 | |
| 生育環境 | 低山地の溪谷沿い林内。 |
| 現 状 | 「津江山地」で採集された標本はあるが, その生育地は把握されていない。 |
| 備 考 | |

テバコモミジガサ

学名 *Cacalia tebakaensis* (Makino) Makino

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県：準(NT) 環境省：掲載なし

NO IMAGE

【選定理由】

生育地はかなり広いが、個体数は比較的少なく、森林伐採や植生遷移の進行で、生育状態の悪化が懸念される。

| | |
|-------|--|
| 県内分布 | 耶馬溪地区, 英彦山・犬ヶ岳山地, 津江山地, 九重火山群, 大分川・大野川丘陵地, 祖母・傾山地, 北川上流域 |
| 分布域 | 本州(関東地方, 東海道, 奈良, 中国地方西部), 四国, 九州(熊本・大分・宮崎) |
| 世界的分布 | |
| 生育環境 | 丘陵地から山地の林内。 |
| 現状 | 同一場所に混生するモミジガサに比べ個体数が極めて少ない。多くは谷沿いに生育するため、生育地を流失した所がある。 |
| 備考 | ソハヤキ要素の植物。国立・国定公園指定植物[阿蘇くじゅう, 耶馬日田英彦山, 祖母傾] |

コバナガンクビソウ

学名 *Carpesium faberi* Winkler

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県：Ⅱ (VU) 環境省：Ⅱ (VU)

NO IMAGE

【選定理由】

県内では、「大分川・大野川丘陵地」で生育が確認されている。渓谷沿いでもあり、森林開発や河川工事などによる、生育地の消滅が懸念される。

| | |
|-------|---|
| 県内分布 | 大分川・大野川丘陵地 |
| 分布域 | 本州(近畿地方以西),九州(福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島) |
| 世界的分布 | 中国 |
| 生育環境 | 丘陵地の林縁や林内。 |
| 現 状 | 「大分川・大野川丘陵地」では渓谷沿いのスギ林縁で採集されたが、個体数は少ない。 |
| 備 考 | |

ミヤマヤブタバコ

学名 *Carpesium triste* Maxim.

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県：Ⅱ (VU) 環境省：掲載なし

NO IMAGE

[選定理由]

県内の分布は限られ、[情報不足]の「祖母・傾山地」とは隔離分布している「九重火山群」に新たな生育地が見つかった。生育地は限られ、個体数は極めて少ない。植生遷移や草刈りなどにより、絶滅が懸念される。

| | |
|-------|---------------------------------------|
| 県内分布 | 九重火山群, (祖母・傾山地) |
| 分布域 | 北海道,本州,四国,九州(大分・宮崎) |
| 世界的分布 | |
| 生育環境 | 山地の林縁。 |
| 現 状 | 「祖母・傾山地」で採集されているが, その後の生育状況は把握されていない。 |
| 備 考 | |

イヨアブラギク

学名 *Chrysanthemum indicum* L. var. *iyoense* Kitam.

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県: IB(EN) 環境省: 掲載なし

NO IMAGE

【選定理由】

分布域は狭く,県内での生育地は希で,生育範囲も狭い。道路に露出している岩場などに多くみられ,道路工事などで消滅する危険性が高い。

| | |
|-------|---------------------------------------|
| 県内分布 | 国東地区, 別府湾沿岸域, 石灰岩地域 |
| 分布域 | 四国(愛媛),九州(大分) |
| 世界的分布 | |
| 生育環境 | 低地や丘陵地の岩場や林縁。 |
| 現 状 | 生育地は点在し,生育範囲は狭く,個体数も少ない。 |
| 備 考 | 九州,四国の特産種。本県の生育地は,豊後水道を挟んで分布の西限域にあたる。 |

アシズリノジギク

学名 *Chrysanthemum japonense* (Makino) Nakai var. *ashizuriense* Kitam.

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県：準(NT) 環境省：掲載なし

NO IMAGE

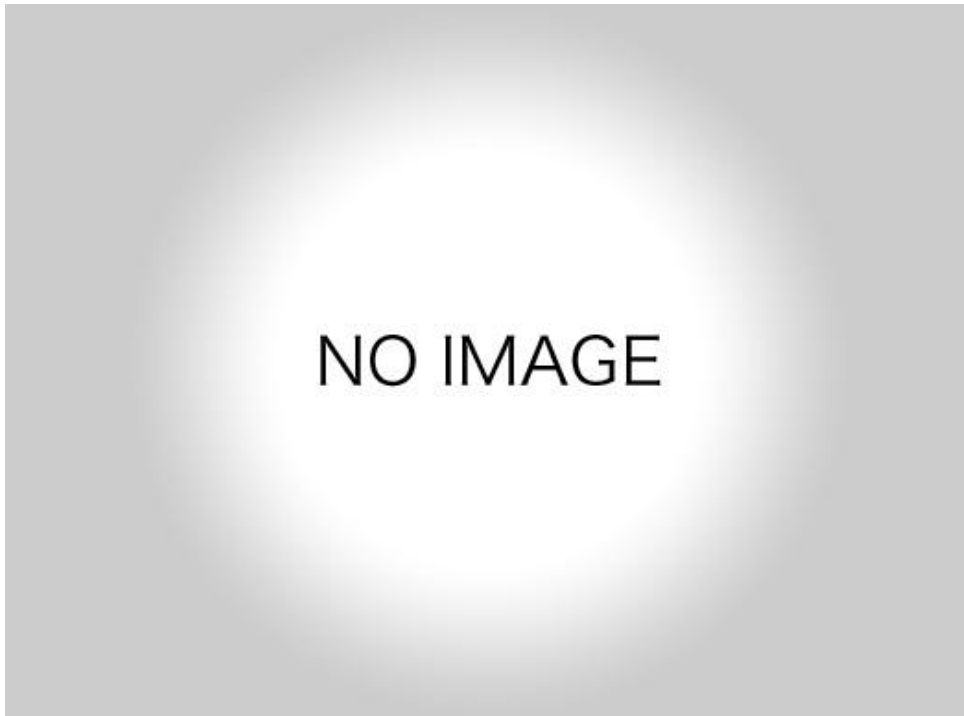
【選定理由】

ノジギクの亜種で分布域は狭い。県内の分布は「豊後水道域」の海岸を主とし、生育範囲は比較的広く、個体数も多い。道路工事、埋立工事などの影響で、生育地の減少が懸念される。

| | |
|-------|---------------------------------------|
| 県内分布 | 姫島・国東海岸, 豊後水道域 |
| 分布域 | 四国,九州(大分・宮崎) |
| 世界的分布 | |
| 生育環境 | 海岸の草原や路傍,崖地。 |
| 現状 | 「豊後水道域」は生育範囲は広く, 個体数も多い。栽培菊との雑種もみられる。 |
| 備考 | 九州,四国の特産種。国定公園指定植物[日豊海岸] |

イワギク

| | | |
|-------|---|--------------|
| 学名 | Chrysanthemum zawadskii Herbich subsp. Latilobum (Maxim.) Kitag. Var. dissectum (Y.Ling) Kitag. | |
| 目名 | | |
| 目名学名 | | |
| 科名 | キク科 | |
| 科名学名 | Compositae | |
| カテゴリー | 大分県: I A (CR) | 環境省: II (VU) |



[選定理由]

日本各地に点在して隔離分布する。県内では火山山頂帯の岩場など数か所に生育している。登山者による踏みつけや人による採取で消滅した生育地があり、個体数も少なくなって、絶滅の危険性が極めて高い。

| | |
|-------|---|
| 県内分布 | 玖珠丘陵地・山地, 九重火山群 |
| 分布域 | 本州(岩手・福井・石川・奈良), 四国, 九州(熊本・大分・宮崎) |
| 世界的分布 | |
| 生育環境 | 火山山頂帯風衝地の岩場。 |
| 現状 | 人による採取で著しく減少し, 採取しにくい所にわずかに残っている。 |
| 備考 | 大陸系遺存植物。国立・国定公園指定植物[阿蘇くじゅう, 耶馬日田英彦山]。指定希少野生動植物。 |

モリアザミ

学名 *Cirsium dipsacolepis* (Maxim.) Matsumura

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県：Ⅱ (VU) 環境省：掲載なし

NO IMAGE

[選定理由]

県内での生育地は限られていて狭い。しばしば群生して個体数はかなり多い。植林や野焼きの停止による環境変化や人工牧野に改変されて、生育地の減少や消滅が懸念される。

| | |
|-------|---------------------------------------|
| 県内分布 | 九重火山群, 由布・鶴見火山群 |
| 分布域 | 本州, 四国, 九州(佐賀・熊本・大分・宮崎) |
| 世界的分布 | |
| 生育環境 | 丘陵地や低山地の草原。 |
| 現 状 | 人工牧野に改変されて消滅した生育地がある。 |
| 備 考 | 基準標本産地[久住山]。本県では、これまで人による根茎の採取はみられない。 |

ウラジロヤナギアザミ

学名 *Cirsium lineare* (Thunb.) Sch.-Bip. var. *discolor* Nakai

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県: II (VU) 環境省: 掲載なし

NO IMAGE

[選定理由]

生育地が限定され、個体数も少ない。湿原などの生育環境が改変され、生育地の減少や消滅が懸念される。

| | |
|-------|--|
| 県内分布 | 耶馬溪地区, 日田低地・丘陵地, 津江山地, 由布・鶴見火山群, 豊後水道後背地域, 石灰岩地域, 大野川上流域 |
| 分布域 | 九州(福岡・長崎・熊本・大分・鹿児島) |
| 世界的分布 | |
| 生育環境 | 丘陵地の草原や湿原。 |
| 現状 | 草原や湿原の改変によって, 消滅したり, 個体数の減少した生育地がある。 |
| 備考 | |

ニッポウアザミ

学名 *Cirsium nippoense* Kadota

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県: IB(EN) 環境省: 掲載なし

NO IMAGE

【選定理由】

宮崎県北部から大分県東部に分布するアザミである。「豊後水道域」の生育地は狭く個体数も多くない。土木工事や道路工事で個体数が激減し、絶滅の危険性が高い。

| | |
|-------|---|
| 県内分布 | 豊後水道域 |
| 分布域 | 九州(大分・宮崎) |
| 世界的分布 | |
| 生育環境 | 低地の路傍, 休耕地。 |
| 現 状 | 佐伯市蒲江波当津地域では数百株の本種が見られたが, 高速道路工事のため, ほとんど埋没消滅した。移植保護しているが個体数は少ない。 |
| 備 考 | |

サツママアザミ

学名 *Cirsium sieboldii* Miq. subsp. *austrokiushianum* (Kitamura) Kitamura

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県: II (VU) 環境省: II (VU)

NO IMAGE

[選定理由]

生育地は火山地域の湿地に集中し少ない。しばしば群生する。湿地開発や周辺地の土地改変で生育環境の悪化が懸念される。

| | |
|-------|---|
| 県内分布 | 耶馬溪地区, 九重火山群 |
| 分布域 | 九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島) |
| 世界的分布 | |
| 生育環境 | 丘陵地や低山地の湿地。 |
| 現 状 | 生育地の周辺が開発されて, 生育状態が衰退した所がある。 |
| 備 考 | マアザミ(<i>C. sieboldii</i>)より葉の棘が多い。花茎に1~3個の苞がつき, 頭花も多く, 大きい。 |

イズハハコ

学名 *Conyza japonica* (Thunb.) Less.

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県：準(NT) 環境省：II (VU)

NO IMAGE

[選定理由]

県内では各地に生育地がみられ、個体数もかなり多い。崖地に生育するため、崖の自然崩壊や道路拡幅による影響が懸念される。

| | |
|-------|--|
| 県内分布 | 日田低地・丘陵地, 別府湾沿岸域, 大分川・大野川丘陵地, 豊後水道域, 豊後水道後背地域, 大野川上流域, 北川上流域 |
| 分布域 | 本州(関東地方西部以西), 四国, 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島), 沖縄 |
| 世界的分布 | 台湾, 中国, インド, マレーシア |
| 生育環境 | 低地や丘陵地の乾いた崖。 |
| 現状 | 生育地は比較的多く, いずれの生育地も生育環境は安定している。 |
| 備考 | |

ヒゴタイ

学名 *Echinops setifer* Iljin.

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県： I B (EN) 環境省： II (VU)



[選定理由]

火山性草原に生育し、生育地は限られていて、個体数も少ない。野焼きの停止による植生の遷移や人工牧野への改変など、生育環境の変化によって消滅した所もあり、人による採取もあって絶滅の危険性が高くなっている。

| | |
|-------|---|
| 県内分布 | 耶馬溪地区, 玖珠丘陵地・山地, 九重火山群, 由布・鶴見火山群, 大分川・大野川丘陵地, 豊後水道域, 大野川上流域, 祖母・傾山地 |
| 分布域 | 本州(愛知, 岡山), 四国, 九州(長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) |
| 世界的分布 | 朝鮮半島 |
| 生育環境 | 丘陵地から低山地の日当たりのよい草原。 |
| 現 状 | 「九重火山群」や「由布・鶴見火山群」の草原では、人により大量に採取されて激減している。 |
| 備 考 | 大陸系遺存植物。国立公園指定植物[阿蘇くじゅう]。指定希少野生動植物。 |

アキノハハコグサ

学名 *Gnaphalium hypoleucum* DC.

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県: IB(EN) 環境省: II(VU)

NO IMAGE

[選定理由]

県内では生育地は点在し、個体数は極めて少ない。河岸工事や道路工事による生育環境の変化で、絶滅の危険性が高くなっている。

| | |
|-------|---|
| 県内分布 | 耶馬溪地区, 別府湾沿岸域, 大野川上流域 |
| 分布域 | 本州, 四国, 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) |
| 世界的分布 | 朝鮮半島, 中国, 台湾, インド, フィリピン |
| 生育環境 | 低地や丘陵地の草地。 |
| 現 状 | 1年草のため生育環境の変化によって持続して生育することは難しく, かつて生育していた所も生育状況の把握ができない所が多い。 |
| 備 考 | |

ソナレノギク

学名 *Heteropappus hispidus* (Thunb.) Less. subsp. *insularis* (Makino) Kitamura

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県：Ⅱ (VU) 環境省：掲載なし

NO IMAGE

【選定理由】

四国・九州の一部に分布する。本県では当該地の海岸にみられ、日当たりのよい路傍などに多い。道路拡張や草刈りなどにより、消滅や生育環境の悪化が懸念される。

| | |
|-------|---|
| 県内分布 | 豊後水道域,豊後水道後背地域 |
| 分布域 | 四国,九州(大分・宮崎・鹿児島) |
| 世界的分布 | |
| 生育環境 | 海岸路傍や崖地。 |
| 現状 | 「豊後水道域」の半島や沿海地の海岸崖地や路傍に生え、しばしば群生するが、人里に近い所では草刈りなどで衰退している。 |
| 備考 | 国立・国定公園指定植物[瀬戸内海, 日豊海岸]。ヤマジノギクの茎などに毛のない亜種。 |

ブゼンノギク

学名 *Heteropappus hispidus* (Thunb.) Less. subsp. *koidzumianus* (Kitamura) Kitamura

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県：準(NT) 環境省：準(NT)



【選定理由】

県北地方に広く分布する凝灰岩の岩場に生育する。越年草であるが、よく繁殖している。人里近い生育地では、土地の改変や人による採取が懸念される。

| | |
|-------|---|
| 県内分布 | 耶馬溪・国東丘陵地, 玖珠丘陵地・山地 |
| 分布域 | 九州(佐賀・大分) |
| 世界的分布 | |
| 生育環境 | 低地や丘陵地の岩場。 |
| 現 状 | 県北地方の凝灰岩の岩場に生え, 良好な生育地を多くみかける。寺院周辺では消滅した所がある。 |
| 備 考 | 九州北部地域の特産種。基準標本産地[耶馬溪町耶馬溪]。国定公園指定植物[耶馬日田英彦山]。 |

チョウセンスイラン

学名 *Hololeion maximowiczii* Kitamura

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県: IB(EN) 環境省: 準(NT)

NO IMAGE

【選定理由】

国内では九州を分布域とする。県内の生育範囲は狭く、個体数も少ない。土地改変、野焼きの停止による植生の遷移などで、絶滅の危険性が高い。

| | |
|-------|--|
| 県内分布 | 中津・宇佐低地, 玖珠丘陵地・山地, 九重火山群, 由布・鶴見火山群,(大分川・大野川丘陵地) |
| 分布域 | 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島) |
| 世界的分布 | 朝鮮半島, 中国(東北部), 中国, アムール |
| 生育環境 | 丘陵地から山地の湿地。 |
| 現状 | 生育環境の悪化で, 生育状態が衰退した生育地がみられる。「大分川・大野川丘陵地」の標本はあるが, その生育地は把握されていない。 |
| 備考 | 大陸系遺存植物。 |

ホソバオグルマ

学名 *Inula britannica* L. subsp. *linariaefolia* (Turcz.) Kitamura

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県: II (VU) 環境省: II (VU)

NO IMAGE

【選定理由】

分布域は狭いが、県内の生育地は散在し、個体数もかなり多い。湿地開発や植林などで生育環境が悪化し、生育地の減少や消滅が懸念される。

| | |
|-------|--|
| 県内分布 | 耶馬溪・国東丘陵地, 日田低地・丘陵地, 津江山地, 玖珠丘陵地・山地, 九重火山群, 由布・鶴見火山群, 大分川・大野川丘陵地, 豊後水道後背地域, 大野川上流域, (祖母・傾山地) |
| 分布域 | 本州,九州(福岡・佐賀・熊本・大分) |
| 世界的分布 | 朝鮮半島,中国(東北部),中国,蒙古,アムール,ウスリー |
| 生育環境 | 丘陵地や低山地の湿地, 低地の草原。 |
| 現 状 | しばしば群生している所もみかけるが, 環境の変化で衰退した所がある。「祖母・傾山地」の標本はあるが, その生育地は把握されていない。 |
| 備 考 | 大陸系遺存植物。 |

カセンソウ

学名 *Inula salicina* L. var. *asiatica* Kitamura

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県：Ⅱ (VU) 環境省：掲載なし

NO IMAGE

【選定理由】

生育地は散在し、個体数は少ない。人里近くの生育地では、道路工事などの土地改変や路側の草刈り、植生遷移の進行などによる環境変化で、生育地の減少や消滅が懸念される。

| | |
|-------|---|
| 県内分布 | 耶馬溪・国東丘陵地, 姫島・国東海岸, 豊後水道域, 大野川上流域 |
| 分布域 | 北海道, 本州, 四国, 九州(福岡・大分・宮崎) |
| 世界的分布 | 朝鮮半島, 中国(東北部) |
| 生育環境 | 低地や丘陵地の草地。 |
| 現 状 | 草原や林縁に生えるため、植生遷移の進行による消長がみられ、低地では消滅した生育地が生じている。 |
| 備 考 | 九州は、分布の南限域にあたる。 |

タカサゴソウ

学名 *Ixeris chinensis* (Thunb.) Nakai subsp. *strigosa* (Lev. et Van.) Kitamura

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県: IB(EN) 環境省: II(VU)

NO IMAGE

[選定理由]

生育地は希で、個体数も少ない。低地の人里近い所では、土地改変や植生遷移の進行で消滅した生育地があり、絶滅の危険性が高くなっている。

| | |
|-------|--|
| 県内分布 | 中津・宇佐低地, 姫島・国東海岸, 別府湾沿岸域, 豊後水道域, 大野川上流域 |
| 分布域 | 本州, 四国, 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・鹿児島) |
| 世界的分布 | |
| 生育環境 | 低地や丘陵地の草地。 |
| 現 状 | 把握された生育地はかなりあるが, どの生育地も生育環境が悪化し, 消滅した所がある。 |
| 備 考 | 大陸系遺存植物。 |

ホソバニガナ

学名 *Ixeris makinoana* (Kitamura) Kitamura

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県: IB(EN) 環境省: IB(EN)

NO IMAGE

[選定理由]

ため池の池畔を生育地とするが、生育するため池は少なく、個体数も多くない。生育地の水位の変化が著しいため、生育環境が変わり、絶滅の危険性が高くなっている。

| | |
|-------|--|
| 県内分布 | 中津・宇佐低地, 別府湾沿岸域 |
| 分布域 | 本州(関東以西), 四国, 九州(福岡・大分・宮崎・鹿児島) |
| 世界的分布 | インド(北部), ベトナム |
| 生育環境 | 低地の池畔。 |
| 現 状 | ため池の水位の高いときは水湿地に生育し、水位が低くなると湖盆内の裸地に生育する。 |
| 備 考 | |

オオバヨメナ

学名 *Kalimeris miqueliana* (Hara) Kitamura

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県：情報不足 (DD) 環境省：掲載なし

NO IMAGE

[選定理由]

| | |
|-------|--------------------------------------|
| 県内分布 | (祖母・傾山地) |
| 分布域 | 四国,九州(佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎) |
| 世界的分布 | |
| 生育環境 | |
| 現 状 | 「祖母・傾山地」で採集された標本はあるが,その生育地は把握されていない。 |
| 備 考 | |

チョウセンヤマニガナ

学名 *Lactuca raddeana* Maxim.

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県：Ⅱ (VU) 環境省：掲載なし

NO IMAGE

【選定理由】

火山性高原の草原に生育地が散在しているが、個体数は多くない。草原開発や野焼きの停止、植林などによる環境の変化で、生育地の減少や消滅が懸念される。

| | |
|-------|--|
| 県内分布 | 耶馬溪地区, 玖珠丘陵地・山地, 由布・鶴見火山群, 大野川上流域 |
| 分布域 | 九州(福岡・佐賀・大分・宮崎・鹿児島) |
| 世界的分布 | 朝鮮半島, 中国(東北部), 東亜温帯～亜寒帯 |
| 生育環境 | 丘陵地や低山地の草原。 |
| 現状 | 生育地の草原が開発されて減少している所が多い。 |
| 備考 | 大陸系遺存植物。九州は、分布の南限域にあたる。ヤマニガナ(var. <i>elata</i>)と類似し、しばしば混生している。 |

ミヤマアキノノゲシ

学名 *Lactuca triangulata* Maxim.

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県: IB(EN) 環境省: 掲載なし

NO IMAGE

[選定理由]

生育地は極めて希で、個体数も僅少。不安定な溪谷沿いの崩壊地を生育地とするため、大雨による流失や植生の遷移による環境変化で、絶滅の危険性が高い。

| | |
|-------|-----------------------------------|
| 県内分布 | 由布・鶴見火山群 |
| 分布域 | 本州(中部),九州(大分) |
| 世界的分布 | 朝鮮半島,中国(東北部),千島,ウスリー,アムール |
| 生育環境 | 低山地の溪谷沿いの林縁。 |
| 現状 | 溪谷沿いの林内に散生し,生育地も狭く,生育環境が安定していない。 |
| 備考 | 北方寒冷地要素の植物で,隔離分布し,本県は,分布の南限域にあたる。 |

オオモミジガサ

学名 *Miricacalia makineana* (Yatabe) Kitamura

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県：準(NT) 環境省：掲載なし

NO IMAGE

【選定理由】

生育地は山地の陰湿地に限られ、しばしば群生することがある。生育環境の影響を受けやすく、森林伐採や遷移進行による環境変化が懸念される。

| | |
|-------|--|
| 県内分布 | 英彦山・犬ヶ岳山地, 津江山地, 九重火山群, 祖母・傾山地, 北川上流域 |
| 分布域 | 本州, 四国, 九州(熊本・大分・宮崎) |
| 世界的分布 | |
| 生育環境 | 低山地や山地の溪流辺や湿った谷沿いの林内。 |
| 現 状 | 山地の水気のある湿った林内に小群落をつくって生育している。生育地が谷沿いのため、崩壊して生育状態の衰退した所がある。 |
| 備 考 | ソハヤキ要素の植物。国立・国定公園指定植物[阿蘇くじゅう, 耶馬日田英彦山, 祖母傾] |

ツクシカシワバハグマ

学名 *Pertya robusta* (Maxim.) Beauverd var. *kiushiana* Kitamura

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県: II (VU) 環境省: 掲載なし

NO IMAGE

[選定理由]

分布域が極めて狭く、生育地域が限定されていて、個体数は少ない。森林開発や植林などによる環境変化で、生育地の減少や消滅が懸念される。

| | |
|-------|---------------------------------|
| 県内分布 | 由布・鶴見火山群 |
| 分布域 | 九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島) |
| 世界的分布 | |
| 生育環境 | 丘陵地や低山地の林縁や林内。 |
| 現 状 | 「祖母・傾山地」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。 |
| 備 考 | 九州特産種。 |

ヒナヒゴタイ

学名 *Saussurea japonica* (Thunb.) DC.

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県: IB(EN) 環境省: IA(CR)

NO IMAGE

[選定理由]

日本での分布域は狭く、本県の生育地は希で、個体数も少ない。越年草のため、生育環境の変化によって生育状態に著しい消長がみられ、絶滅の危険性が高い。

| | |
|-------|---|
| 県内分布 | 別府湾沿岸域, 豊後水道域, 石灰岩地域 |
| 分布域 | 九州(長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) |
| 世界的分布 | 朝鮮半島, 中国, 台湾 |
| 生育環境 | 低地や丘陵地(石灰岩地)の草地や林縁。 |
| 現 状 | 生育状態に消長がみられ, 生育地が持続しないで散発的に生育する。かつての生育地で生育が持続していない所が多い。 |
| 備 考 | 大陸系遺存植物。 |

ミヤコアザミ

学名 *Saussurea maximowiczii* Herder

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県：Ⅱ (VU) 環境省：掲載なし

NO IMAGE

【選定理由】

主として火山性高原の湿地に分布し、生育地、個体数ともに少ない。高原の土地開発や人工牧野の改変によって、生育地の減少や消滅が懸念される。

| | |
|-------|--|
| 県内分布 | 津江山地, 玖珠丘陵地・山地, 九重火山群, 由布・鶴見火山群 |
| 分布域 | 本州,九州(福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島) |
| 世界的分布 | 朝鮮半島,中国(東北部),ウズリー |
| 生育環境 | 丘陵地や低山地の湿地。 |
| 現状 | 湿地の周辺地にまで生育するため, 高原の土地開発によって消滅した生育地がかなり多い。 |
| 備考 | 大陸系遺存植物。国立公園指定植物[阿蘇くじゅう] |

オオダイトウヒレン

学名 *Saussurea nipponica* Miq.

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県：準(NT) 環境省：掲載なし

NO IMAGE

【選定理由】

県内では「英彦山・犬ヶ岳山地」、「大分川・大野川丘陵地」、「津江山地」、「由布・鶴見火山群」などの各地に分布しているが、個体数は少ない。路傍に生育しているものは人為的攪乱で、林内に生育しているものは風水害などで、個体数の減少や衰退が見られる。最近、シカによる食害が多くなってきた。

| | |
|-------|--|
| 県内分布 | 英彦山・犬ヶ岳山地, 大分川・大野川丘陵地, 津江山地, 由布・鶴見火山群 |
| 分布域 | 本州(近畿地方), 四国, 九州(佐賀・大分) |
| 世界的分布 | |
| 生育環境 | 低山地の林内や林縁。 |
| 現状 | これまでツクシトウヒレンとされていた県内のものは、すべてオオダイトウヒレンとされた。 |
| 備考 | |

ヒメヒゴタイ

学名 *Saussurea pulchella* Fisch.

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県：Ⅱ (VU) 環境省：Ⅱ (VU)

NO IMAGE

【選定理由】

生育地は散在し、個体数は少ない。越年草で草原や林縁に生えるため、植生遷移の進行による環境変化の影響を受け、生育地の減少や消滅が懸念される。

| | |
|-------|--|
| 県内分布 | 耶馬溪地区、(日田低地・丘陵地)、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、豊後水道後背地域、石灰岩地域、大野川上流域 |
| 分布域 | 北海道、本州、四国、九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎) |
| 世界的分布 | 朝鮮半島、中国(東北部)、樺太、東シベリア |
| 生育環境 | 丘陵地や低山地の草地や林縁。 |
| 現 状 | 生育地は散在していて、生育状態が悪く、生育が持続していないことが多い。「日田低地・丘陵地」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。 |
| 備 考 | 九州は分布の南限域にあたる。国立・国定公園指定植物[阿蘇くじゅう、日豊海岸]。 |

キクアザミ

学名 *Saussurea ussuriensis* Maxim.

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県: II (VU) 環境省: 掲載なし

NO IMAGE

【選定理由】

生育地は散在していて個体数は少ない。草原や林縁に生えるため、植林や野焼きの停止などの植生遷移の進行で、生育地の減少や消滅が懸念される。

| | |
|-------|--|
| 県内分布 | 由布・鶴見火山群, 別府湾沿岸域, 大分川・大野川丘陵地, 豊後水道後背地域, 大野川上流域 |
| 分布域 | 本州,九州(大分) |
| 世界的分布 | 朝鮮半島,中国(北部,東北部),ウスリー |
| 生育環境 | 丘陵地や低山地の草原や林縁。 |
| 現状 | 生育地は散在しているが,いずれも生育範囲は狭く, 植生遷移の進行により衰退した生育地がみられる。 |
| 備考 | 大陸系遺存植物。本県は, 分布の南限域にあたる。国立公園指定植物[阿蘇くじゅう] |

コウリンギク

学名 *Senecio argunensis* Turcz.

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県: I A (CR) 環境省: I B (EN)



[選定理由]

確認されている生育地は、極めて希で、個体数も僅少。生育地一帯は放牧地として利用され、道路にも接しているため攪乱され、あるいは採取されて、絶滅の危険性が極めて大きい。

| | |
|-------|--|
| 県内分布 | 玖珠丘陵地・山地,(九重火山群), (由布・鶴見火山群) |
| 分布域 | 九州(大分) |
| 世界的分布 | 朝鮮半島,中国(東北部),ダフリア |
| 生育環境 | 丘陵地の草原。 |
| 現 状 | 河川沿いの草原で,毎年野焼きされる。生育範囲は極めて狭く,辛うじて生育を維持している。 |
| 備 考 | 「九重火山群」はすでに消滅した可能性が大きい。「由布・鶴見火山群」の標本はあるが,その生育地は把握されていない。 |

タカネコウリングク

学名 *Senecio flammeus* Turcz. ex DC.

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県: IB(EN) 環境省: IB(EN)

NO IMAGE

【選定理由】

県内では火山性高原の草原や山頂帯の風衝地に点在し、南限域となっている。個体数は僅少。高原での生育地は高原の各種開発で消滅しており、絶滅の危険性が高くなっている。

| | |
|-------|--|
| 県内分布 | 津江山地, 玖珠丘陵地・山地, 九重火山群, 由布・鶴見火山群, 祖母・傾山地 |
| 分布域 | 九州(熊本・大分) |
| 世界的分布 | 朝鮮半島, 中国(北部・東北部), 蒙古, アムール, ウスリー, ダフリア |
| 生育環境 | 火山性高原や山頂帯の風衝地草原。 |
| 現 状 | 高原の生育地では, 植林や人工牧野, ゴルフ場などの土地改変で消滅した所がある。 |
| 備 考 | 大陸系遺存植物。九州は, 分布の南限域にあたる。 |

キクバヤマボクチ

学名 *Synurus palmatopinnatifidus* (Makino) Kitamura

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県：Ⅱ (VU) 環境省：掲載なし

NO IMAGE

【選定理由】

分布域が狭く、本県での生育地は火山地域に限定されて点在し、個体数は少ない。生育地の草原は、畑地などの土地開発や植林に改変されており、減少や消滅が懸念される。

| | |
|-------|--|
| 県内分布 | 玖珠丘陵地・山地, 九重火山群, 由布・鶴見火山群 |
| 分布域 | 本州(近畿以西・中国), 四国, 九州(熊本・大分・宮崎) |
| 世界的分布 | |
| 生育環境 | 丘陵地から山地の草原や林縁。 |
| 現 状 | 火山性高原では、畑地などの周辺の草原に残存する個体をみかけることがある。山地の草原で森林化している所では生育状態が衰退している。 |
| 備 考 | |

カンサイタンポポ

学名 *Taraxacum japonicum* Koidzumi

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県: IB(EN) 環境省: 掲載なし

NO IMAGE

[選定理由]

県内での標本や記録はあるが、生育地が確認されている所は極めて少ない。生育地は路傍に多く、生育環境の変化が著しく、絶滅の危険性が高い。

| | |
|-------|--|
| 県内分布 | (英彦山・犬ヶ岳山地),(九重火山群), 豊後水道域 |
| 分布域 | 本州(近畿地方以西),四国,九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分) |
| 世界的分布 | |
| 生育環境 | 低地や山地の路傍,草原。 |
| 現状 | 「豊後水道域」では10年前までは路傍に群生していたが、道路工事でほぼ壊滅状態になった。その後、周辺の草原などに少数が確認されている。「英彦山・犬ヶ岳山地」,「九重火山群」の標本はあるが、その生育地は把握されていない。 |
| 備考 | |

ツクシタンポポ

学名 *Taraxacum kiushianum* H. Koidzumi

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県： I B (EN) 環境省： II (VU)



[選定理由]

分布域は限られ、本県では山地の草原や林縁、路傍に生えるが、個体数は極めて少ない。植生遷移の進行や帰化植物との競合、登山道の整備などにより、絶滅の危険性が高くなっている。

| | |
|-------|--|
| 県内分布 | (耶馬溪地区), 玖珠丘陵地・山地, 九重火山群, 由布・鶴見火山群 |
| 分布域 | 四国, 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) |
| 世界的分布 | |
| 生育環境 | 丘陵地や山地の草原, 林縁。 |
| 現状 | 火山性草原や林縁にごく希にみられ, 個体数も限られる。場所によってはセイヨウタンポポ(<i>T. officinale</i>)と競合して生育地が狭くなっている。「耶馬溪地区」の標本はあるが, その生育地は把握されていない。 |
| 備考 | 基準標本産地[耶馬溪町川原口] |

ハマグルマ

学名 *Wedelia prostrata* (Hook. et Arn.) Hemsl.

目名

目名学名

科名 キク科

科名学名 Compositae

カテゴリー 大分県: IB(EN) 環境省: 掲載なし

NO IMAGE

[選定理由]

海岸砂浜に生え、しばしば群生するが、生育地は狭い。護岸工事による砂浜の減少、レジャーによる浜の荒廃などで消滅した生育地があり、絶滅の危険性が高くなっている。

| | |
|-------|---|
| 県内分布 | 周防灘海岸, 姫島・国東海岸, 別府湾沿岸域, 豊後水道域 |
| 分布域 | 本州(関東以西), 四国, 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島), 沖縄 |
| 世界的分布 | 朝鮮半島, 中国(東北部の南部), 台湾, 中国, インドシナ |
| 生育環境 | 海岸の砂浜や砂礫地。 |
| 現 状 | 各地域とも生育地は点在し, 群生地は少なくなっている。 |
| 備 考 | |